令和８年11月12日
子ども・若者部
子ども・若者支援課

（仮称）世田谷地域青少年交流センターの開設に向けた検討状況について

１ 主旨

（仮称）世田谷地域青少年交流センター（以下「センター」という。）の令和10年3月（予定）開設に向けて、この間、中高生世代から39歳までの若者で組織した「若者検討会」が中心となり、若者たちが望む施設や運営の内容等について議論を行うなど検討を進めてきた。現在の検討状況について報告する。

２ 若者検討会の開催概要

世田谷区在住、在学、在勤の中高生世代から39歳までの若者メンバー32人が、施設の設計や運営の内容に若者の意見を反映するため、基本コンセプト及び、機能配置イメージを踏まえながら、実現したい機能やデザイン、アクティビティや地域交流の取組み等について検討を進めている。

（1）構成メンバー（公募により募集）

区内在住、在学、在勤の中高生世代から39歳までの若者　32人

（内訳） 中学生　3人、高校生世代 10人、大学生世代　7人、社会人世代（23～39歳） 12人

（2）検討会の実施

5月から12月まで月1～2回開催し、委託事業者のファシリテートのもとグループワークを中心とした検討を実施

（3）検討会の会場

世田谷文化生活情報センター

3　若者検討会における検討内容





活動概要

	開催日	検討テーマ
第1回	5月14日	どんな居場所にしたいかを考える
第2回	5月28日	大切にしたいことや過ごし方、関わる人などを共有し場をイメージする
第3回	6月18日	大切にしたい場をコラージュで表現する
第4回	6月25日	大切にしたい場のイメージをグループコラージュにまとめる
第5回	7月16日	ゾーニングと地域交流について考える
第6回	8月6日	平面計画と外観について考える
第7回	9月10日	プレイベントについて考える
第8回	9月24日	平面計画について考える
第9回	10月29日	空間づくりの素材について考える
第10回	11月19日	まとめと交流（予定）
報告会	12月20日	検討結果を報告する（予定）

※上記のほか、地域の町会・自治会、商店街の関係者との意見交換会や、検討の参考として、希望丘青少年交流センター「アップス」や代官山ティーンズクリエイティブなどの若者施設、民間企業のオフィス（スポティファイ等）の空間づくりの視察を実施。

■若者が希望するセンターでの過ごし方や機能の検討（第1～2回検討会）

（1）第1回検討会（5/14木）「どんな居場所にしたいかを考える」

・「どんなセンターにしたいか」をテーマに、付箋を使ってグループ内で自由にアイデアを書き出した。
・「アクティブとリラックスの共存」、「服を脱がなくていい銭湯のような空間」など、ユニークで本質的なコンセプトが続々と発表された。

（2）第2回検討会（5/28木）「大切にしたいことや過ごし方、関わる人などを共有し場をイメージする」

・前回でた意見をもとに準備した「アイディアカード」に自分の意見を記載したものを共有し、共通する想いや価値観を組み合わせながら理想の「場」を構想した。
・「新しい交流が生まれる開かれた場所」と「一人で落ち着ける空間」の両立、「自然や地域とのつながりを感じられる場」など、さまざまな視点からアイデアが広がった。







主な意見、検討内容（第１～2回検討会）

■若者からは、みんなと過ごすこともでき、一人で過ごすこともできる居場所として、**その日の状況や自分の状態等に応じ、利用方法を選択できる環境を望む声**が上がった。

・一人ひとりのスタンスが尊重され、交流・ワイワイしたい人も、ひとりがいい・リラックス・集中したい人も思い思いに過ごせる。
・誰かと集まることで生まれる発見と、個に向き合うことを尊重されることがグラデーション的に共存する空間を目指す。

■具体的には、勉強やワークができる場や一人でリラックスできる空間など、**個人で集中したり、好きなように過ごせる、また休める機能**のほか、みんなでご飯を食べられるレストランのような場所、多世代や地域とつながることができるイベントや仕掛けなど、**人と機会との出会いや交流を生み出す機能**、また、音楽やダンス、アート制作等のクリエイティブ活動など**自分の好き・やりたいを発見、実現できる機能**や、**困った時に相談できる仕組み**を望む声などが上がった。

・「服を脱がなくてもいい銭湯のような空間」にしたい。
・異文化交流など新しく人に出会える機会や、逆に同じ興味関心の人と出会える「アクティブ」の側面と、集中して作業をしたり靴を脱いでくつろげたりする「リラックス」の側面が共存できる場所。
・困った時に頼れる場所。
・工作、料理など何かをつくる「ミンナデツクルーム」の提案や、一息ついて休むことのできる「チルルーム」、来館者同士の出会いが生まれる「ツヅクツナガルーム」。

■このほか、生き物や緑といった自然とのふれあいや、リラックスや交流の仕掛けとしての「こたつ」の設置、蛇口からジュースが出るなど非日常の体験といった、多様な意見が出た。

第2回検討会 「大切にしたい場」のまとめ資料



■若者が希望するセンターの場のイメージ（第3～4回検討会）

（1）第3回（6/18木） 個人ワーク「大切にしたい場をコラージュで表現する」

・これまで言葉で積み上げてきた「大切にしたい場」を、目に見える形へと変換していく作業を実施した。
・「みんなでご飯・カフェ・こども食堂」、「クリエイティブな活動、好きやりたいの発見」、「地域・つながり・世代間交流」、「人と機会の出会いと交流」 、「勉強やワーク・集中できる場」、「それぞれの居心地・相談・チル」の6テーマに沿って、壁一面に貼られた写真を組み合わせて個々にコラージュを作成した。

（2）第4回（6/25木） グループワーク「大切にしたい場のイメージをグループコラージュにまとめる」

・みんなで一つのセンターを作っていくことをイメージしながら、第3回で作成した個人のコラージュを振り返り共有した後、グループごとにコラージュを作成した。







主な意見、検討内容（第3～4回検討会）

■一人で過ごしたり、落ち着いて過ごせる「静」のフロア、みんなで活動したり、やりたいことに取り組む「動」のフロア、地域や多世代との交流の場となるフロアなど、**利用目的に応じたフロア分け**を求める意見が出た。

作成したコラージュには、静かに過ごす／活動する、大人数／少人数、明るい／暗い、表現／内省、固定された空間／距離感を自分で図れる、といった対になる要素が、上手くつながるグラデーションの形で表現された。

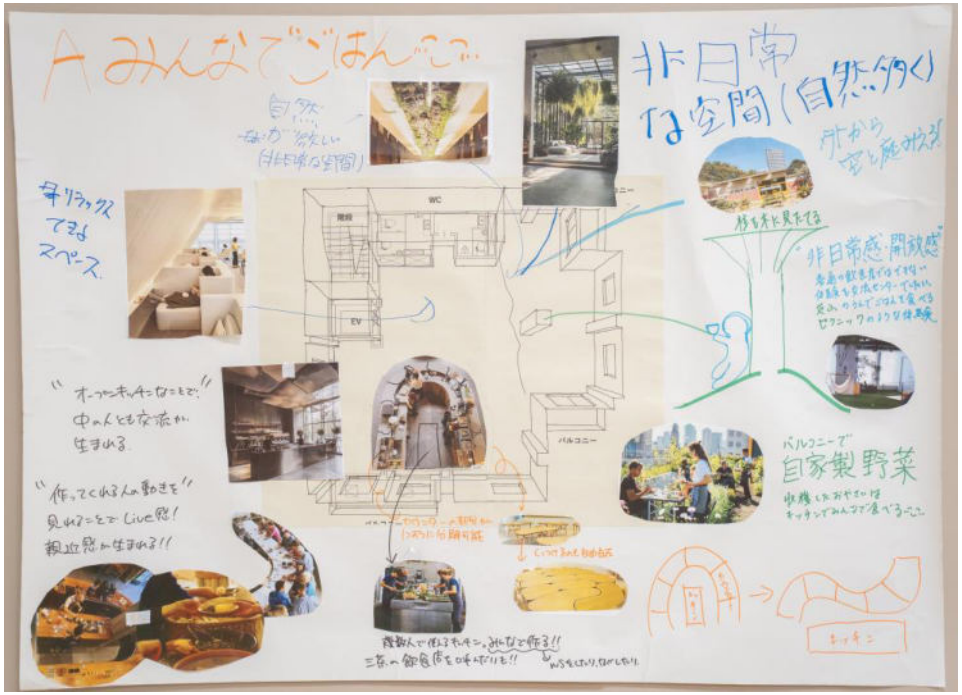
■フロアの中央に交流やリラックスができる広場を設けることや、曲線を多用することで視線を適度にずらしながら利用者同士が関りやすい空間デザイン、壁を動かせ、様々な表現活動に対応できる可変的な空間構成、黒板塗装の壁や交換日記、掲示板といった自然と交流が生まれる仕掛けなど、**様々な利用者の過ごしやすさ、やりたいことの実現、交流の促進等につながる空間設計**を求める意見が出た。

・ハンモックや芝生など、特別感のある設備のもと、みんなで楽しくご飯を食べる場づくりを大切にしたい。
・壁を動かせる可変的な空間。柱や壁に展示スペースを設け、バルコニーには足湯と菜園を配置する。
・フロアの中央には、フリーな広場・ソファースペースを設けることで、不特定多数の利用者が、おのおの居心地よくゆるやかに繋がりつつ過ごせる。
・集中テーブルを中央に配置し、周囲にグリーンを交えたバルコニーやリラックススペース。
・相談スペース、防音にも配慮した本棚による区切りや、柱や壁を活用した個人の展示スペース。

■このほか、ハンモックや芝生などの非日常的な設えや、1階の図書館カウンターと連携した本の設置などの意見が出た。

第4回検討会　グループコラージュ②

グループA｜みんなでご飯を食べて交流する



・バルコニーで収穫した野菜を調理。

・ハンモックや芝生など非日常的な空間で、三軒茶屋の店舗関係者や地域の人とも食を通じて繋がれる場所。

グループB｜やりたいことをつくる、実現する

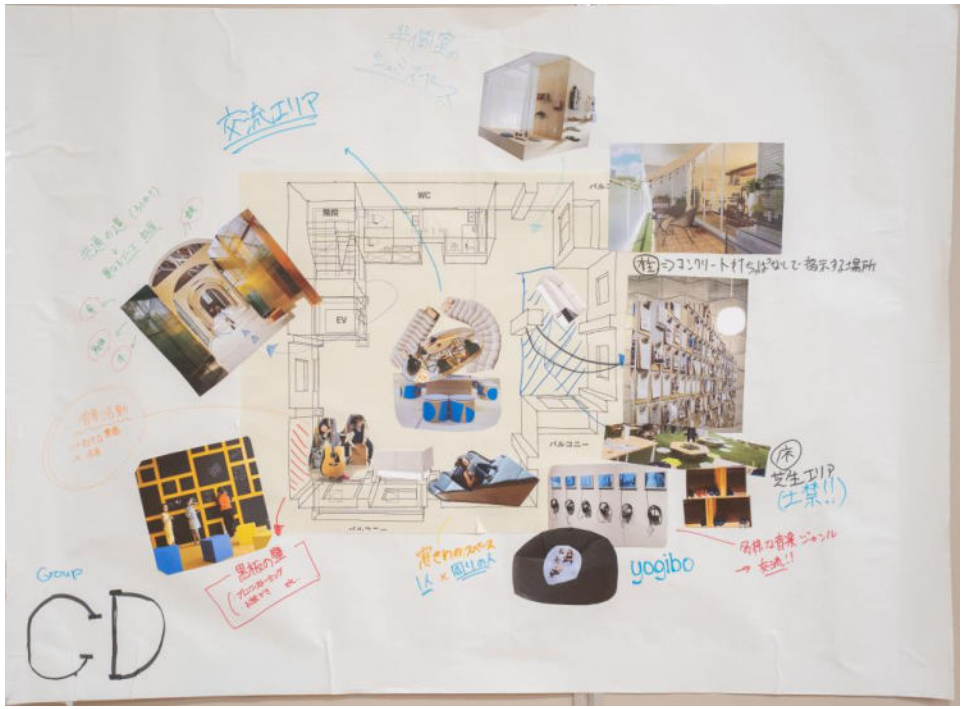


・壁を動かせる可変的な空間構成でそれぞれの表現活動が実現できる。

・柱や壁には展示スペース、みんなの“やってみたい”を尊重して形にする。

第4回検討会　グループコラージュ②

グループCD｜地域のつながりと多世代交流



・黒板塗装の壁や交換日記、掲示板など、自然と交流が生まれる仕掛け。

・中央のフリー広場・ソファスペースで、それぞれのペースでゆるやかに過ごせる。

グループEF｜勉強・集中・チルスペース



・中央に集中できるテーブルを置きつつ、グリーンを交えたバルコニーやリラックススペース。

・相談スペースも確保。

・防音に配慮した本棚の区切りや、曲線を多用したデザイン。

若者メンバーが希望した施設への視察

①希望丘青少年交流センター「アップス」 7/4(土)
施設内の様々な機能を見学し、若者主体の運営や居場所づくりについて職員と意見交換した。

②景丘の家／代官山ティーンズクリエイティブ 7/26（日）
受託者が渋谷区で運営する施設を見学し、多世代の居場所運営や、若者主体のイベントの実施、空間デザインなどを学んだ。

③Spotify Japan 7/30（木）
多様な働き方や交流を促す空間の仕組みやデザインについて学び、Spotifyの社員と意見交換した。


希望丘青少年交流センター「アップス」


景丘の家


Spotify Japan

■ゾーニングと地域交流について考える（第5回検討会）

第5回（7/16木）

（1）全体ワーク

検討会を踏まえたゾーニングについての意見交換

（2）個人ワーク

2階の「多世代・地域交流ラウンジ」についてのアイデアや議論をより深めるため、ペルソナシートを使って、センターで誰と、どんなことをしたいのかを考えた。

（3）グループワーク

地域交流のありかたについて各自が発表し、設計士がその場で平面図にドローイングした。
「世代を超えた交流」、「親子でゆったり過ごせる空間」、「多様な背景を持つ人を受け入れる場」、「アナログで情報交換できる仕掛け」など、多様なアイデアを全体で共有した。







これまでの若者検討会の意見を踏まえて作成したゾーニング計画

■低層階（1階・2階）「地域交流エリア」

若者検討会で議論した「地域・つながり・世代間交流」を具体化するフロアとする。

■中層階（3階）　「地域交流エリア」・「若者中心のエリア」

両方のエリアに位置付ける。若者専用の時間帯など、若者中心の運用方法を別途検討する。

■高層階（4階・5階）「若者中心のエリア」

中高生世代から30代までの若者が、居心地よく、自分らしく過ごせるフロアとする。

【1階】エントランス・ラウンジ

センターの総合受付を設置する。図書館カウンター三軒茶屋は、西側に場所を移動して引き続き運営する。
エントランスには若者だけでなく地域の方もくつろげるラウンジ空間を設ける。

【2階】多世代・地域交流ラウンジ

南側にセンターを利用する若者と地域の方が交流できる「（仮称）多世代・地域交流ラウンジ」を設ける。
北側に「おでかけひろば」を新設する。

【3階】カフェラウンジ

若者だけでなく地域の方も利用できる「カフェラウンジ」を設ける。一部にセンタースタッフの事務室を設ける。

【4階】アクティブ・クリエイティブな活動スペース

若者を中心として、クリエイティブな活動を行うフロアとする。
開放的な空間で、ダンスや卓球、音楽活動、調理ができるための機能を配置する。

【5階】みんなにとって居心地の良いスペース

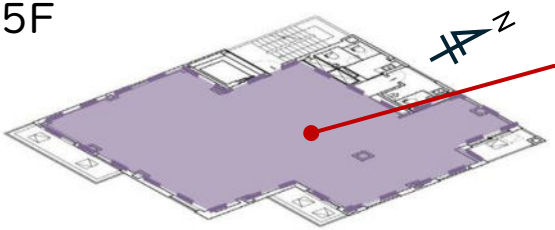
若者を中心として、静かに過ごすフロアとする。
勉強やワークに集中して取り組んだり、相談したりするための機能を配置する。

ゾーニング計画図

「若者中心のエリア」

中高生世代から30代までの若者を中心に、それぞれが自分らしく過ごせるエリアを3～5階に配置。

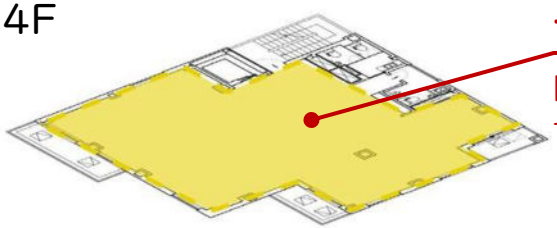
5F



みんなにとって居心地の良いスペース

趣味、勉強、ワークに集中するなど、比較的静かに過ごすエリア。チルルームや相談室も備えた、距離感を自分で選べる空間。

4F



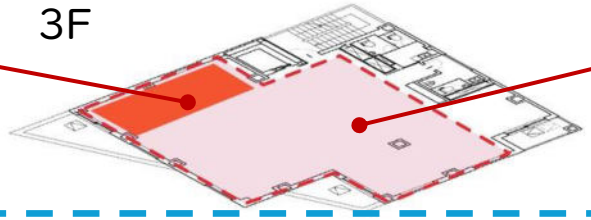
アクティブ・クリエイティブな活動スペース

開放的な空間の中でクリエイティブな活動を展開できる音楽室やキッチン設備などを備えた自由度の高い空間。

事務室

どの階にもアクセスしやすい3階に配置。

3F



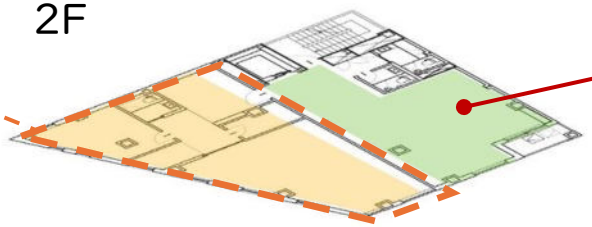
カフェラウンジ

若者にとっても、地域の人にとっても利用しやすい3階に配置。日常的なカフェ利用に加え、イベントなど非日常な利用にも対応する空間。

おでかけひろば

図書館カウンター

2F



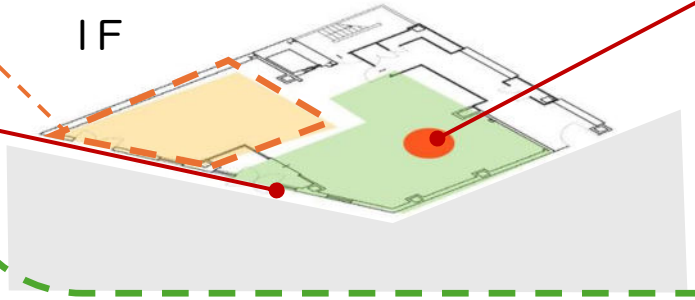
多世代・地域交流ラウンジ

若者と地域の人が一緒に過ごし、交流することができる空間。

総合受付

施設案内や入退館の管理を行う。

1F



エントランス・ラウンジ

地域に開かれたエントランス。図書館カウンター利用者や地域の人も一緒に過ごせるラウンジ空間。

「地域交流エリア」

若者と地域の人が交流できるエリアを1～3階に配置。

■「平面計画と外観について考える①」（第6回検討会）

第6回検討会（8/6木）

（1）グループワーク

これまでの検討から生まれた平面計画案について、シュミレーション・意見交換をおこなった。

（2）個人ワーク

建物の外観イメージについて、それぞれが窓や看板などをパースに書き込んで発表した。
「植栽を積極的に取り入れ、閉鎖感を解消したい」、「多様な人への歓迎が伝わる賑やかな配色と、光をたくさん取り込む窓を」、「自分が方向音痴だから、たどり着きやすいわかりやすい外観にしたい」など様々な意見が展開された。

（3）全体ワーク

青少年交流センターの正式名称について意見交換をおこない、「三軒茶屋青少年交流センター」を正式名称（案）とする方向性を確認した。







建物の外観イメージ

「三軒茶屋の若者のランドマーク」

「植栽を積極的に取り入れ閉鎖感を解消したい」、「多様な人への歓迎が伝わる賑やかな配色と光をたくさん取り込む窓を設置する」、「たどり着きやすいわかりやすい外観にしたい」といった若者の意見や、地域の方々の意見も踏まえ、若者だけでなく地域住民からも愛され、外から見て中に入ってみたいと思えるような、魅力的な外観を目指していく。

青少年交流センターの正式名称（案）

「世田谷区立三軒茶屋青少年交流センター」

地名や歴史に由来する太子堂という名称も魅力的ではあるが、世田谷のことをあまり知らない人でも分かりやすいことが重要という議論を踏まえ、「三軒茶屋青少年交流センター」を正式名称（案）とする方向性を確認した。

地域の関係者との意見交換会　9/5(土)

テーマ：「若者だけでなく、地域にとって魅力的な居場所とは何かを考える」

(1)検討状況の発表

過去の検討で作成した模造紙などを使って、検討の経過を発表した。
若者メンバーそれぞれが検討会を振り返りながら、自身の言葉で、今まで参加した感想や、機能配置や空間づくりのプランに込めた思いを表明した。

(2)グループでの意見交換

「若者だけではなく、地域にとって魅力的な居場所とは?」をテーマについて議論をおこない、若者メンバーと地域の町会、商店街の参加者が互いの意見に耳を傾けながら、模造紙に意見をまとめた。
若者が過ごす居場所というだけではなく、地域の人にとっても「ここに来てみたい」、「関わってみたい」と思えるような、地域のランドマークとなる施設を目指すことを共有した。







■プレイベントについて考える」（第7回検討会）

第7回検討会（9/10木）

（1）グループワーク

・センター開設に向けて、若者や地域の人に広く周知し、関心を高めるとともに、応援してくれる人を増やしていくことを目的とした「プレイベント」について検討した。
・若者らしさを表現するメニューや利用者自身がアレンジできるメニューを提供する「カフェスタンド」の設置や、若者有志が出演できる「パフォーマンス」の実施について意見交換をおこなった。

第1回プレイベント企画（案） 3月6日（土）開催予定
コンセプトは「オアシス」。居心地の良さや地域のつながりを感じられる若者主体のイベントにする。交流を意識したワークショップやプロによるパフォーマンス、参加型アート、若者検討会展、若者有志パフォーマンス、カフェスタンド等の実施を予定している。







■平面計画について考える②（第8回検討会）

第8回検討会（9/24木）

（1）全体ワーク

今までの議論を踏まえて作成した、各フロアの平面計画（案）について設計士が説明した後、計画や、空間づくりの方向性についての理解を深めるための質疑応答・意見交換をおこなった。

（2）グループワーク

各フロアの模型を見ながら、平面計画について議論をおこなった。
「自分の意見が実際に反映されていてびっくりした」、「天井を壊して高くするアイデアが良い」、「大きな本棚がとても良い」などの感想が発表された。
また、カフェスペースでどの席が使いやすいか、自分ならどの席を使うかについて意見交換したところ、一人で座るタイプの席に共感が集まった。







■空間づくりの素材について考える（第9回検討会）

第9回検討会（10/29木）

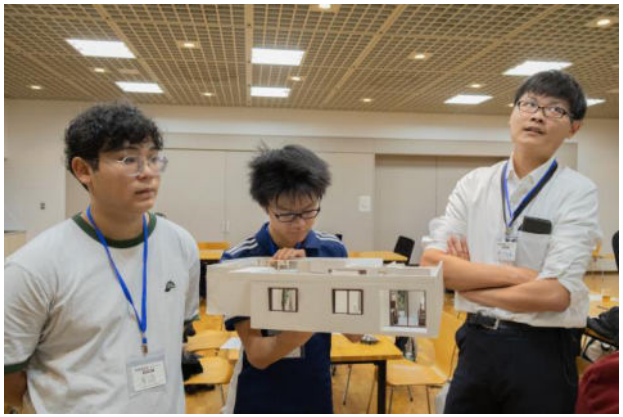
（1）グループワーク

各フロアの平面計画（案）の内装仕上げイメージににについて設計士が説明した後、仕上げ素材のサンプルを手に取り、平面図を見ながら、グループごと具体的な仕上げについて、若者だけでなく、地域の利用者や小学生の立場にもたって検討した。

「4階に雲梯（うんてい）があるのが魅力的だと思った」、「居心地の良い空間をつくるための設計技術を知ることができた」といった感想や、「カフェのカウンターや、テーブルの天板は大きさや場所に応じて、木製と人工大理石製を使い分けたら良い」、「ソファをはじめとして、長く使うものなのでメンテナンスのしやすい素材にしたほうが良い」といった意見などが発表された。







4 「若者検討会」検討結果報告会の開催

日時：12月20日（日）午後3時30分～午後5時
会場：オークラレストラン スカイキャロット（キャロットタワー26F）
内容：「若者検討会」に参加したメンバーが自身の言葉で検討結果を報告する。
ゾーニング計画案に基づく、平面計画案についても提案する予定。
（参加自由。申込不要）

5 ガバメントクラウドファンディングの実施

若者の意見を反映した施設整備に活用するとともに、センター開設に向けた気運醸成を図っていくため、今後実施するプレイベント等、様々な機会において寄附を募っていく。

（1）第1期　令和8年11月13日～令和9年3月31日　目標額300万円
（2）第2期　令和9年4月1日～令和10年2月29日　目標額700万円

6 今後の予定

令和8年12月20日　「若者検討会」検討結果報告会
令和9年　2月　　子ども・若者施策推進特別委員会（施設整備工事等について）
　　3月　　第1回プレイベントの実施
　　6月～　　改修工事
令和10年3月　　開設

（参考）センターの基本コンセプト（令和8年2月5日子ども・若者施策推進特別委員会資料再掲）

Concierge

若者が多様な人とのつながりを通じて、
ライフスタイルを広げることができる居場所
若者のコンシェルジュ

Oasis

若者がふらっと立ち寄り、安心して
自分らしく過ごすことができる居場所
若者のオアシス

